授業概要

この授業では戦後日本の歴史を「経済」の側面から概観する。戦後復興と高度成長を中心テーマとし、具体的には、①アメリカ主導で遂行された戦後改革の過程と意義、②日本政府独自の経済復興政策（傾斜生産方式）、③高度成長の過程と主な要因（設備投資、技術導入・技術革新、所得増と大衆消費市場の成立、平和な国際環境）、④高度成長と公害問題、⑤オイルショック、円高、貿易摩擦への日本の対応など、いくつかのサブテーマを通じて、戦後日本経済の復興・成長過程を講義する。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション（授業内容、授業方法、評価方法、参考文献など）
第 2 回	アメリカの対日占領管理方式の特徴
第 3 回	戦後経済改革Ⅰ 農地改革
第 4 回	戦後経済改革Ⅱ 労働改革
第 5 回	戦後経済改革Ⅲ 財閥解体
第 6 回	「傾斜生産方式」と戦後復興
第 7 回	財閥から企業集団へ
第 8 回	中間テスト
第 9 回	技術導入と技術革新
第 10 回	高度経済成長と設備投資
第 11 回	高度経済成長期の産業政策
第 12 回	所得増と大衆消費市場の成立
第 13 回	高度経済成長の負の遺産
第 14 回	オイルショックと高度成長の終焉
第 15 回	日本経済のグローバル化
第 16 回	期末試験

到達目標

- 1、戦後改革の意義、影響を理解する。
- 2、日本の産業・企業が戦後混乱期から立ち直った歴史的経緯を理解する。
- 3、高度経済成長の背景・過程・意義を理解する。

履修上の注意

無断欠席、遅刻・早退、授業中の私語・スマホ操作は厳禁する。

予習・復習

- 1、指定された日本経済史の参考書は少なくとも一冊通読することが望ましい。
- 2、授業後にプリントおよび講義ノートを読み返し、要点を整理し、理解を深めてください。

評価方法

期末試験（40%）、中間テスト（30%）、授業態度（30%）を総合して評価する。

テキスト

特に使用しない。講義内容に応じてプリントを配布し、参考書を適宜指示する。